

# 巻頭言

## 今後の油脂業界について思うこと

公益社団法人 日本油化学会 関西支部支部長 大森 達 司



2017年度から日本油化学会関西支部の支部長を拝命しております。

今回、巻頭言執筆のお願いを戴きました。歴代の諸先輩方々を差し置いて僭越ではありますが、「今後の油脂業界について思うこと」と題しまして、書かせて頂きます。

日本の社会にいま散見される危機的状況は見逃してはならないと思います。将来への不安、倦怠と失望、閉塞感が社会に蔓延しはじめています。人口も減少の道を辿り始めています。これら状況を打破するために油脂業界ができることは何かと考えてみました。

不二製油は、菜種や大豆が油脂の主要原料だった時代、後発の植物油脂メーカーとして創業しました。「他社と同じことをやっていたのでは成長はない」と、新原料を模索していた私たちは、当時日本ではなじみのなかったヤシやパームなどの南方系植物油脂に活路を求めました。これらは液状油成分と固形脂成分の混合物であり、様々な融点の油脂を取り出すことは極めて難しく、大きな挑戦でした。

この挑戦により独自の「分別」技術を確認すると、その後「酵素エステル交換」技術を完成、その工業化に世界で初めて成功。こうした独自技術を基盤に、多彩な油脂製品を世界中に送り出してきました。このように各社がこれまでの歴史の中で生み出した独自技術を磨きながら様々な可能性を見出していく必要があるように思います。例えば、「分ける」というアプローチは、より素材の本質に迫る手法であり、不二製油にとって“技術フィロソフィー”とも呼べる原点的な存在です。不二製油では、油脂のみならず大豆へも利用し、脱脂大豆から高純度の大豆たん白製造法や、おからから水溶性大豆多糖類の効率的な抽出方法など日本初や世界初となる技術を開発していきました。このように常に挑戦の意識を持ち続けながら油脂業界の発展に貢献していきたいと思えます。

また、近年パーム油を取り巻く環境が変わりつつあります。パーム油は植物油の生産量では世界第1位ですが、

その背景には森林伐採による生態系の消失、生産者の人権問題など様々な問題があります。このような問題を背景に、2004年にRSPO「持続可能なパーム油のための円卓会議」が設立され、持続可能なパーム油の生産と利用が促進され始めています。「見えない油」と言われてきたパーム油への関心は、機関投資家も含め、国内でも高まりつつあります。不二製油グループは、2016年3月に策定した「責任あるパーム油調達方針」において、環境問題や人権問題のないパーム油調達を目指すことを表明しています。この調達方針を実現する方法の一つとして、2017年にマレーシアの農園会社であるUNITED PLANTATIONS (UP) 社との合弁会社 (UNIFUJI) の立ち上げを公表しました。UP社は世界初のRSPO認証油を生産するなど、環境・人権に配慮した持続可能な農園運営に強みを持っています。今回設立したUNIFUJIでは、UP社の農園で生産された持続可能なパーム油を原料に、高付加価値のパーム油製品を製造します。また、日本社会における持続可能なパーム油調達に貢献するため、ステークホルダーとの協働も進めています。小売・消費財メーカーを中心とした業界団体 The Consumer Goods Forum の日本組織が運営するパーム油ワーキンググループに参画し、小売や消費財メーカーとともに、日本企業が持続可能なパーム油調達を実現する上での情報共有や課題の協議を行っています。持続可能なパーム油に真摯に取り組む企業として、他企業を牽引するとともに、社会における関心喚起や消費者への働きかけにも注力していきたいと考えています。

最後になりましたが、本年9月4日～6日、神戸学院大学有瀬キャンパスにて開催される第57回年会は実行委員として関西支部が担当します。American Oil Chemists' Society (AOCS) とのジョイントミーティングも同時に開催される等様々な企画を予定しておりますので、多くの方々にご参加をいただき、本会が盛会となりますよう皆様のご支援をお願い致します。

(不二製油株式会社 代表取締役社長)